

# 討論

## ■発言者

河野 元子(司会)……京都大学大学院  
 舛谷 鋭 ……立教大学  
 篠崎 香織 ……在マレーシア日本大使  
 伊賀 司 ……神戸大学大学院  
 山本 博之 ……京都大学地域研究統合情報センター  
 中村 正志 ……アジア経済研究所  
 鷺田 任邦 ……東京大学大学院  
 西 芳実 ……東京大学  
 塩崎 悠輝 ……同志社大学大学院・  
 在マレーシア日本大使館

岡本 正明 ……京都大学東南アジア研究所  
 金子 芳樹 ……獨協大学  
 貞好 康志 ……神戸大学

### 選挙の準備はいつ始まったか

舛谷 有権者がいつごろこの選挙を意識したのかが、報道と実際とでややずれていたように思っています。私はMCAのある候補者が選挙区入りしたのを昨年12月に個人的に聞いています。その人は2月15日の旧正月のころから選挙区で非公式ながら小規模な集会を始めました。その人がたまたま新人だったからというのものもあるかもしれませんが、少なくとも3週間は選挙運動をやっていて、しかも有権者は彼が選挙に出ると3ヵ月くらい前からわかっているという状況だったと聞いていますが、これについて篠崎さんと塩崎さんはそれぞれどうお感じになりますか。

篠崎 選挙キャンペーンは普通なら1週間程度らしいのですが、今回は2週間だったので、後半になればなるほど野党側のほうが有利になったと言われていました。私は報告でそう言いましたが、私自身がそう認識しているというわけではなくて、そういう議論があることを報告したということです。選挙運動期間がどれだけ長いとどういう効果があるかはよく考えていません。

塩崎 有権者がいつから選挙を意識し始めたかは、個人によると思いますが、総選挙が2008年3月に実施されるというのは2007年のはじめくらいからコーヒショップなどでも話題に上っていました。2007年8月説とか2007年11月説などいろいろありましたが、2008年3月説もずっと前からあった説で、2008

年に入ったあたりからはだいたい3月だろうと多くの人が思っていました。ふつうは国会を解散する前に首相と副首相が全州をまわるのですが、それは2007年の終わりくらいから始まっていたと思います。ただし、候補者が決まったのはもっと後だったと思います。UMNOの候補は選挙の直前に決まって、混乱したり反発が起きたりしていました。PASの候補は2008年1月には決まっていました。

伊賀 政党が選挙の準備をするのと、人々がどう考えたかは違うと思います。選挙運動期間中の3月5日の*Sun*の一面に、今回の選挙ではスウィングボーター (swing voter) が35~40%いるという記事が出ました。みんなどうするか最後のところで迷っているようでした。これは主流メディアに載った記事なのでどこまで本当なのか疑わなくてはいけない部分もありますが、実際に話を聞いてみると迷った人は多いという感じを受けました。選挙期間が2週間あったことがBNに不利に働いたことに対して、何かあるのではないかと考えています。特にペナンでは、選挙運動期間中にペナンの州首相の指導力のなさを示す事例として、大規模外資のモトローラーが他の国に行ってしまうことになり、州首相が首相にどうかしてほしいと懇願したのですが、その態度が物乞いのようにだと*Malaysiakini*などのオルタナティブメディアに批判されて州首相の印象が悪くなったことがありました。また、先ほどのセッションでも言い

ましたが、選挙に消えないインクを導入することを前々から決めていたのに、投票の4日前に取り消したことに對して国民はみな怒りました。今回の選挙の結果を左右したのはこのような短期的な要素があったように思います。

### マレーシアの選挙の公正さ

**参加者** 先ほど来のやり取りを聞いていますと、マレーシアの選挙では候補者が大事ということでしょうか。つまり、有権者が民族的に支持政党を選んでいるということではなく、政治家のリーダーシップが大事で、今までのマレーシア選挙の研究ではそれはあまり細かく問われてこなかったということでしょうか。BN体制が強固だったということですが、今回の選挙をきっかけに別の枠組が必要とされているということでしょうか。その点に対して特に塩崎さんにコメントをお伺いしたいと思います。

もう一点、選挙の公正さがおそらく初めてマレーシアで 이슈になった、あるいは40年ぶりに 이슈になったと理解してよろしいのでしょうか。

**塩崎** 後者の質問については、以前から 이슈になっていました。例えば2004年もそうです。ただし、今回は非常に特に大きな 이슈になって野党が大規模な行動をとったということも事実です。

前者の質問は、候補者を見て投票する人が増えたという話も聞くし、そのような世論調査の結果もあったと思います。BNの統治勢力が弱まったということや、BNの政策決定に野党が介入するようになったということはないです。むしろ、マハティール政権下で中央集権化が進んでいますし、BNのUMNO以外の政党が政策決定に介入できなくなっています。カイリ・ジャマルディンというアブドゥラ首相の娘婿が「わが国のパワーシェアリングは世界に冠たる民族対策で、これによって民族問題を解決する模範となろう」と話していましたが、非マレー人にしてみれば、パワーシェアリングなんていうのは嘘で、首相府など中枢の力はすごく強いですし、役所、特にEPUや財務省に行けばマレー人ばかりですし、そういう役人を使うのはあくまでもUMNOです。

### 州レベルでの争点は何だったのか

**貞好** 篠崎さんにお伺いします。政策と社会サービスに話を分けて、MCAはサービスにすごく力を入れていて、しかもそのことを選挙運動に持ち込んでいたというお話がありました。政策とサービスという話はどの国のどの選挙にもあると思うのですが、2008年選挙で政策とサービスというとき、サービスと対置されるような政策上の争点があるとすれば、それは何だったのですか。それにお答えいただく際に、国政上の争点も聞きたいのですが、州議会の選挙で政策上の争点があるとすれば何なのか、そもそも州議会レベルでの政策について聞くこと自体に意味があるのかを教えてください。

ここから先は篠崎さんに限らずどなたでもいいので教えてくださいのですが、マレーシア研究者でない者としてよくわからないのは、マレーシアの連邦制とは何なのかということです。私はインドネシアと比べて考えているのですが、単一共和国制を堅持しているインドネシアでは、1998年の政変以降、地方分権という名のもとに中央と地方の引っ張り合いが最大の政治上の争点の1つになっていて、地方選挙はものすごく注目されています。それに比べて、マレーシアは曲がりなりにも連邦制をとっているのに、みなさん国会の選挙結果と州議会の選挙の結果を分けてデータを提示してはいるのですが、お話を伺っている限り、州議会の選挙でどちらが勝ったということにどれくらい意味があるのかわからないんです。つまり、州が民族的な利害との関係においてどれだけものごとを決める制度になっているのかわかりません。州議会のこと、トレンガヌならトレンガヌのことを語るのがどれだけ意味があるのでしょうか。篠崎さんでもどなたからでもいいので教えてください。

**篠崎** 政策上の争点について、実際に争点になった政策は国政レベルで挙げればいろいろありますが、物価上昇や治安の悪化、政府の肝いりで始めた開発プロジェクトにUMNOに近い人に請け負いがまわっているなど、公正さというか社会正義というか、そのあたりが今回争点になっていました。何か特定の争点があって、それにイエスカノーカという感じではなかったように思います。選挙によっても変わる

とは思いますが、今回の国政レベルではそうでした。

州に関して特定の争点があったわけではありませんが、州議会を押しえた人が市議会議員や村長を全部任命する権限を持っているので、地方自治が全部ひっくりかえる可能性があります。実際、BNに任命された村長は全員辞任し、DAPやPASは人材を探さなければならず、その人選も争点になると思います。土地については州の管轄で、華語小学校の土地税の大幅な値下げを打ち出したりしているのです。そうした政策が次回の選挙の争点になるかもしれないと思います。そういう意味で、州レベルで民族的な利害につながることもあります。

**塩崎** マレーシアの連邦制の何たるかについては、明日、地方についてのセッションがありますのでそちらで議論するのではないかと思います。州議会選挙でローカル 이슈はあるんですが、州の行政とは憲法が定める州の権限、つまり土地とか水とか天然資源とかに関するものです。ただし、クランタン州以外では与野党の逆転が考えられていなかったの、その議論がこれまでどこまで活発だったのかはわかりません。私の見た限りでは、クダ州では土地資産税の話が活発でした。付け加えますと、マレーシアでは議員に選ばれるとBNの議員には選挙区の開発予算が国家予算から与えられます。連邦の下院議員だと年間50万リングが与えられて、州議会議員だと30万リングが与えられます。野党の議員を選ぶとその予算が選挙区にまわってこなくなるので、それが大きな違いといえば違いです。

**中村** インドネシアとの比較でいうと、選ばれ方が違います。インドネシアのように首長を直接選んでいるわけではないので、誰が州のトップになるのかは、半島部に限って言えば党のルートで上から決まります。2004年の選挙の時には、ある州のトップだった人が党の決定でいきなりはじかれてしまったことがありました。このように党のルートで極めて中央集権的になっています。だから、州レベルで与野党が逆転すれば話ががらっと変わってきます。連邦議会と州議会をBNで押さえているところは、たいがいのことで党のルートの方が強いのでこれまで州の独自性は見えませんでした。今回の結果を受けて、いろいろなことががらっと変わってくるので、これ

からすごくおもしろくなってきます。サバとサラワクは別の話なので山本さんをお願いします。

**山本** サバとサラワクの話は明日のセッションで扱うことになっているのでそちらでやりましょう。

## 党と州の切り離し

**山本** 州と連邦の話で篠崎さんにお尋ねします。ご報告のなかで、州は野党で連邦はBNとありますが、これは中村さんが先ほどのセッションでやったことと逆になっています。むしろ連邦では野党の議員を出して、州ではBNにした方が都合がいいという話ではなかったかと思いますが、逆に書いているのはどういうことでしょうか。

**篠崎** 確かにこれまでは、野党にはチェック・アンド・バランスの役割を期待して、国会にいろいろるさいことを言う人を送って、州の方では手堅くBNに投票するパターンがペナンなどで強かったようです。1969年にペナン州議会では野党が勝利しましたが、選挙後に連立与党に参加したので、野党政権が成立したのは今回が初めてです。ただしBNは連邦では依然として与党に留まっており、MCAから閣僚が任命されるなど、MCAはBNで分配される資源に依然としてアクセス可能です。資源にアクセスするチャンネルは、今までは州も連邦もBNで一体化していたけれど、州と連邦とで政党ごとに異なる経路が構築されつつあるようです。今度は州議会が野党になったということで、確かに先ほどの中村さんの話と繋がらないところはあると思うんですが、例えばBN政府から華語小学校にいくら助成をまわすかということについて、今までのBNのチャンネルを使うこともできるし、州レベルで独自に対応することもできるという状況になったのだと思います。

## 野党側も民族別原理を維持

**西** 篠崎さんの報告のまとめのところで民族の文化や利益を反映する原則というか希望は維持されているということだったんですが、お話の中で特にサービスの提供という点で民族別である必要性がわかりませんでした。もしそのあたりで補足があれば、なぜ同じ民族の人に依頼するのかも教えてください。実際には相手をしてくれる人がいなければ別の民族

の人に依頼することもあるということだったので、そのあたりは実際どうなっているのでしょうか。

それから、図1で「99年以降のマレーシア半島部における選挙のあり方」とまとめているところで、「同じ民族が候補者の場合は、自分の民族の代表者を選ぶと共に、その民族間の関係のありかたにおいて、BNの連携の仕方、BNの掲げている民族間の関係についての説明とアピールと、それ以外の政党の掲げている他の民族との関係をどう説明しているのか、それらの魅力を比べて選ぶ」とか、「もし自分と異なる民族しか候補者にはいない場合には、その民族間関係のアピールを比べて、やはり魅力的なほうを選ぶ形で、間接的に自分の民族の代表者も選択する」というあり方は、今回の選挙では変わりつつあると篠崎さんは見ているのか、それとも基本的には同じだと考えているのかを伺えればと思います。

**篠崎** さまざまなメディアや、新しいマレーシアのあり方を希求するような集会では、「自分の利益を代表してくれる人ならその人の民族的背景は問わない、そういう社会を作ろう」という話が聞かれます。そうした考え方はある程度支持されているし、そうした動きが出てくる気配もあるように思いますが、少なくとも今回の投票行動を見ると、そこまでいっていないように思います。選挙後の動きも同様で、政党間の力関係もあるとは思いますが、Pakatan Rakyat統治下の州政府は州の行政委員における民族比率を非常に考慮しているようです。たとえば、これまでインド系をあまり高い役職に置くことはなかったけれど、今回はこんな高い役職に置きましたとアピールしたりしているので、そういう意味では野党も「あなたの民族の代表をちゃんと入れましたよ、見えていますね」と支持者に訴えるという発想を持っているように見えます。BNの原則が崩れてこれまでと違う方向に行くのか、あるいは今までの原則がそのまま維持されるのか、どちらに向かうか今の段階では判断し難いですが、今回の選挙については今までの原則が大きかったように思います。

**山本** BNの原則というのはどういうことですか。

**篠崎** マレーシアの半島部の人を華人、マレー人、インド人の3つの民族のどれかに分類して、各民族の代表がBNに入って、BN内の各民族の代表者が半

島部の住民の利益を民族の枠を通して代表していくという原則です。その民族内で何が起ころうが他の民族は基本的に干渉せず、自分たちの民族で起こった問題は自分たちである程度解決してくださいと、ある程度相互不干渉な状況が同時にある仕組みです。各民族の面倒は基本的にその民族の代表が見るといふ了解が基本的にあります。実際には華人コミュニティの中で決められなかった問題をマレー人の首相に投げて決めてもらうこともあります。基本的には民族ごとに代表を出して、その代表が交渉や調整を行っていくという原則です。

**西** つまり、BN体制の仕組みは基本的には変わっていないけれど、UMNOがマレー人に特化した排他的イメージを与えるような政策を出して、自らBN的な連携を壊すような態度をとったために、BNの枠を直そうとする動きが出ていると解釈すればいいのでしょうか。

**篠崎** そうです。その組み直しをBNの華人政党が進めてもよかったですらうけれど、有権者はどうもそれは無理そうだと思って、野党の候補者を自分の代表として選んだようです。BNの中からでも外からでもよいけれど、とにかく今のBNでUMNOが突出している状況をなんとかしてほしいというのが華人の一番の要望なのかなと思います。

### 行政サービスの担い手が政党からNGOに移った

**西** BNの中にいる政党は、それぞれ自分がどの民族の代表なのかをイメージ的に出している一方で、野党側はあまり民族的な性格を全面的に出さないことが求められていたということについては、新しい現象で何か新しい意味を見出せるのか、それとも野党だからそうしなくてはいけないというレベルなのか、そのへんについて何かあれば教えてください。

**金子** サービスの提供はBNにおけるMCAやMICの重要な機能だと思います。つまりBN構成政党としては、UMNOが出してくるマレー人優先政策に関して真正面からBN内で反対することができない。しかし、それを行なっている限りでは、インド系や華人系のコミュニティにサービスと機会が欠如するわけです。そこをどうやって埋めるかという問題がMCAとMICに課せられていて、行政サービスを補完することで

ブミプトラ政策の負の部分の補完を担っているのが彼らだと思うんです。ただ、これは1970年代くらいからやってきているわけですが、1990年代くらいから様相が違うんじゃないかと思うのは、華人コミュニティのサービス提供は必ずしもMCAの専売特許じゃなくなっていることです。たくさんNGOが出てきて、篠崎さんの報告資料でMCAのサービスとして挙げられていることをNGOが盛んにやるようになっていきます。特にペナンは消費者協会が非常に強力で、ここにあるようなことはほとんどやっています。何年前かに消費者協会に話を聞いたことがあるんですが、「我々のサービスはMCAよりはるかに上をいつている」と自負していました。消費者協会は全分野フルセットでやっているのですが、「うちはこの得意分野だけやる」というようなNGOもどんどん出てきていて、ブミプトラ政策のために華人コミュニティに不足してしまっている部分を提供するコミュニティの自助の動きは非常に活発になってきています。ということは、要するにMCAのサービスが相対化されてきていて、いろいろなところと競合していかなくてはならないということです。その時はNGOだけで野党の話は聞けなかったんですが、こういうサービス提供事業のようなことはDAPもやっているという話を聞きました。そういう意味では非常に競争的で、そこで勝てるかどうか試されるようになってきたというのが1990年代以降の状況で、MCAとしても厳しいわけです。開発資金がある程度あったとしても、それを効率的に使えるか、痛いところ痒いところに手が届くかどうかはまた別の問題ですから、そのへんでNGOのパワーは、特にマイノリティのコミュニティにおいて非常に効いてきています。もう少し言ってしまうと、こういうNGOは反BNという意識も持っていましたから、それが今回PKRなどについて、そちらの方を支援しだすということがあったのではないかと思います。アドボカシー型のNGOは野党との結びつきがけっこう強いですから、そういった形で野党連合にNGOが流れたときに、サービスでも強いし、国政でブミプトラ政策など根本的な問題に対して攻めることもやってくれるなら、その方がいいという華人コミュニティの動きが今回の選挙であっても不思議じゃないと思います。

他方でインド系のコミュニティは、この機能が華人コミュニティほどちゃんと機能していません。MICの場合、もともとサービス提供の機能が弱かったと思われるし、NGOが特にインド系コミュニティに焦点を合わせてやっていなかったのではないかと思います。NGOのメンバーにはインド系もかなり多いので、いろいろな陳情をしたりお願いしたりしてくる人の中にインド系もいましたが、コミュニティとして意識的にそれをやろうということについては華人に比べて弱かったように思います。だから結果的に、インド系コミュニティにおいては誰もその不足部分を補ってくれなくて、それが蓄積されてきたのではないかと思います。

質問としては、DAPがMCAに対抗して行政を補完するようなサービスをどのへんまでやっていたのでしょうか。

篠崎 確かに新聞の論調などを見ると、行政サービスはNGO団体や住民協会などがどんどんやっているのだから、MCAは政党である以上もつと政策に絡むべきだという議論もあって、そういう意味でNGOや住民協会の働きに期待する動きが実際にあると思います。そう考えると、これからMCAはますます存在意義がなくなってしまうかもしれないけれど、そこはもう少し政策のところで頑張ることが期待されているのではないかという気もします。MCAがUMNOに対して正面から物を言うことができず、サービスの提供に専念しがちになってしまうことや、MCAがサービスを提供する必然性も減少しつつあることを、華人は認識しています。華人は、MCAの置かれた状況が困難であることにある種の同情を寄せつつも、必要であればMCAに票を投じないという選択をしています。

DAPの国会議員や州議会議員も、自分の選挙区の有権者に対してサービスを提供しています。サービスセンターの運営費は主に議員給与で賄うようですが、議員でない人でも自分で資金を確保できればサービスセンターを開くことがあるようです。ただその場合、完全にボランティアベースとなるので、資金をどう確保するかが問題ですが、NGOとDAPの関係は私もまだよくわかっていません。

西さんのご質問に関しては、もともとDAPやPAS

など各政党が単独でBNと戦っており、BNに対抗する政党は当初から多民族政党だったという背景はあったと思います。

### BNの多民族性と野党側の多民族性

西 先ほどの質問を違う言い方で言えば、BNをひとつの政党と見れば多民族なわけです。与党になっていて、その中でチャンネルをちゃんと区別しているから、それぞれが民族別政党のようになっているけれど、BN全体では多民族と見ることができると思います。野党は、単独で戦っているかぎりは他の民族とも仲良くするつもりはありますというメッセージを出しながら、自分の得意分野から票を集めなくてはいけないという状況になると多民族を打ち出さなくてはならないのであって、与党になると結局それぞれの民族チャンネルに特化していくことになるのではないですか。ただし、多民族性を打ち出した勝ち方をしたので、フレームワークとしてはひとつの政党の中でもいろいろな民族を受け入れますというやり方をするようになるので、サービス提供でも民族のチャンネルだけではなくて違う民族の人が窓口になっていきますという話なのかなと思いました。単独で戦わなくてはいけないから多民族を打ち出さなくてはいけなかったけれども、結局BN構成政党と野党は実はなんら変わりはないのではないかと、それとも違いを見出して何か新しいものができてくるとみるのか、そのへんはどのように位置づけられているのでしょうか。

篠崎 ひとつの可能性ですけれど、BNでは民族の比率に応じて閣僚の数や議員の数を割り当てるところがあり、どうしてもBNの中でマレー人が一人勝ちしてしまう傾向が強いのですが、多民族政党が複数存在すれば民族の比率によらない決め方をすることになるのかもしれませんが。Pakatan Rakyatの間で互いにチェックしあうことで、特定の民族に基づくひとつの強大な政党が出てこないようにする可能性はあるでしょうし、DAPなどはそうしたいと思っているようです。

### ペナンでの票の使い分け

鷲田 資金力からいってもサービスという面からも

BNの議員の方が強いと思います。あるMCA議員が、サービスセンターに来る有権者には、与党支持者だろうが野党支持者だろうが等しくサービス提供を行うと言っていました。もし他のBN議員も同様に対応しているとすると、これまでのように連邦議会ではBNの議員を立てておいて州議会では自分の好きな政党に入れるということをやっていけばよかったと思います。今回彼らが票の使い分けをしなかった最大の理由は何だったのか、サービスの問題なのか、あるいはイシューの問題なのかを教えてください。サービスの問題に関しては、金子さんからBN議員のサービス提供機能がNGOに取って代わられつつあるとの指摘がありましたが、サービスの問題が今回の野党躍進の背景にあるのだとすれば、金子さんが言ったようなNGOのサービス提供機能の強化は、特に近年見られることだと考えられるのでしょうか。また、中村さんの報告にもあった票の使い分けは、ペナンでは昔から盛んだったと思うのですが、それは何故なのかを教えてください。

篠崎 NGOのサービス提供機能が特に近年見られることなのかはわからないのですが、華人コミュニティは以前から自助努力でいろいろなことに対応していた部分があったように思います。

従来のように国会への票と州議会への票の使い分けをすればよかったのではということに関しては、これまで票を使い分けて「この部分はこの人に任せよう」と思っていた部分も、今回はもう任せたくないとか、十分な信頼を寄せられないと認識されたのだと思います。そこはサービスではなくイシューに関わる部分で、マレーシアの全体的なあり方をどうするかとか、民族間の関係をどうするかといった部分だったと思います。

### 組織化、資金、選挙監視

岡本 デモの組織化、お金、選挙監視の3つについてお伺いします。インドネシア政治を見てみると、デモをするときにはデモの責任をとる人がいて、その人がコーディネーターをするんですが、マレーシアのデモや選挙集会ではどうやって人を集めるんですか。自発的に2万人も集まるとは俄かに信じられないのですが、そうだとすればどういう形で組織さ

れているのでしょうか。組織に関係してもう1つ、人間集団をいくつかに分けて分析するときに、民族で切る場合と社会階層で切る場合があって、社会階層で切った場合に労働者だったら労働組合があって、学生だったら学生運動があるという形になるんですけども、インドネシアの国民正義党を見ると、学生組織に食い込んでいって、その組織の人たちを全部自分の味方に変えていくということをしています。そういう形の動きがあるのでしょうか。今回の総選挙は、伊賀さんが言ったように浮動票が非常に高いということですから、有権者の合理的行動で説明できることがかなりあると思うんです。先ほど金子さんが指摘したNGOはそのような方向の1つだと思うんですが、そういう動きがあったかどうかを教えてください。

2つ目はお金です。野党は特にお金がないと思いますが、資金はどこから来ているのでしょうか。特に華人のDAPが気になります。私がマレーシアの華人実業家だったら、与党と野党の両方にお金をまくだろうと思います。そういうことをやっていたのかどうか、もしわかればお伺いしたいです。

3つ目は、インドネシアで選挙のときに一番問題になったのは選挙監視が大事だということで、各政党が選挙監視員を送ったし、海外からも監視団が来たのですが、マレーシアではどういう形で選挙監視システムができていますでしょうか。

塩崎 デモの組織に関して、マレー人の政党についてお答えします。例えば来週デモをやろうということになれば、PASでも集められるのはせいぜい300人から1,000人です。3万人もの大規模なデモはとても時間をかけて準備しています。Hindrafも準備にものごく時間をかけています。Bersihのデモを例にとると、参加者はほとんどPASの青年部なんですけど、それでもトレンガヌやクランタンから人々を動員しなくてはいけないので、ペラは3,000人、スランゴールは4,000人というように動員しています。デモの計画をはじめに言い出したのは1年以上も前でした。最初はプトラジャヤでやると言っていたんですが。

組織化については、マレーシアは少なくともムスリムに関してはNGOは弱いんです。エジプトだったらムスリム同胞団とか、トルコだったらヌルジュとか

があって、政府の行政サービスに余裕で勝るんですが、マレーシアはインドネシアと比べてもイスラム系NGOは弱いんです。もっとも、PASはもともと宗教学校が母体で、そこからウィングを広げていってNGOや学生組織を取り込んでいくことは1980年代くらいからやっています。インドネシアのPKSと比べるとその活動はだいぶ弱いですが、やってはいます。

野党はお金はありません。機関紙の売り上げとか、党員から集めたりとかしています。今回はアメリカの選挙のように資金集めパーティをやったりもしていました。今回はKeadilanが自分のブログで選挙資金集めをして相当集まったというのが話題になっていました。

選挙監視は、野党はやるべきだといっている、与党は必要ないといっています。野党は選挙監視を専門にやっているNGOのマフレルに頼むと言って、アンワールはアメリカから呼ぼうと言いましたが、政府は両方とも受け入れませんでした。

篠崎 DAPは個人からの寄付で資金をまかなっているようですが、どういう人が寄付しているのかは調べていないのでわかりません。ただ、今回は集会に聴衆がたくさん来たり、集会で集まった寄付金の金額もこれまでで最大だったという話は聞きました。

### なぜこのタイミングでBN支持が激減したのか

中村 篠崎さんに伺います。印象論でいいのでアイデアがあれば教えてください。私は、今回のBNの華人票とインド人票の下がりっぷりは歴史的な激変だと思います。それがなぜ今なのか全然わかりません。例えば新経済政策で言えば、1986年や1990年のほうがよほど実のある争点だったと思います。どの党も旗色鮮明にして、1990年でやめるのか、1990年以降も続けるのかという極めてはっきりとした争点だったと思います。今回の選挙ではその時よりも与党の支持が失われています。なぜ今なのかがよくわからないので、もしアイデアがあれば教えてください。

もうひとつ、それとの絡みでお二人にお聞きしたいのですが、さっき言ったように1980年代に新経済政策をその後も続けるかが非常に熱い争点になったとき、アンワール・イブラヒムはUMNOの青年部長

で、一方GerakanやMCAといった与党は新経済政策を止めるべきだと言っていて、アンワールはGerakanやMCAを批判する立場だったわけです。彼は今回の選挙では、民族の区別のない政策をする、新経済政策をやめると言っていますが、それが過去の発言とまるっきり反対であることを人々は知っているのか、知っていたとすると彼の発言をどれくらい信用しているのか、それに対してPASなりPKRなりはどれくらい本気なのかをお聞きしたいです。

**篠崎** 華人票やインド人票の激変がなぜ今なのかというご質問に対して、私自身がきちんと調べたわけではなく、こういう話をよく聞くという程度の話なのですが、PASはイスラム国家をつくると言っているけれど、どうせ単独で政権をとることはできないのだからその心配はないという認識が広まってきているようです。また、「クランタンで華人はそれほど悪い目にあっていないで、むしろPASの方がいいらしい」とペナンの華人が言っていたりするので、華人の間でPASに対する抵抗感はかなり低まっているのかもしれません。1999年や2004年の総選挙でもBNを支持しなくなかったけれど、PASに投票したらマレーシアがイスラム国家になってしまうのではと心配でBNに投票したという話もよく聞きます。

アンワールについては、個人的に話を聞いた印象ですが、信頼している人もいれば信頼できないと言っている人もいます。アンワールがいるからDAPやPASがうまく提携できたとして、彼を高く評価する人もいれば、「彼の能力は高いが、後で何を言い出すかわからない不安はある、でもとりあえずBNに対抗するためにアンワールを利用しよう」と考えている人もいます。

**塩崎** 今回の総選挙結果を説明するときが一番難しいのは、なぜ2004年の選挙結果とこんなに違うのかということです。1999年の選挙でBNが議席を減らしたことを、都市化とか若い有権者とかインターネットの普及とか市民社会とかいうことで説明するのであれば、1999年、2004年、2008年とだんだんBNが減ってきたという話ならわかるんです。でも2004年でBNが大きく勝っているのに、そういう理由では説明できません。なぜ今回このような選挙結果になったかは私にもよくわかりません。